

## ●エンジョイ高知スポーツフェスティバル

僕たちはアンケート結果にあった高知の魅力として、誰もが感じている「自然がいっぱい」という点に着目し、この自然を存分に利用し、また楽しんでもらう企画を考えました。それが「エンジョイ高知スポーツフェスティバル」です。

これは、2つの部門に分かれています。1つ目は、高知の豊かな自然の中で真剣にタイムを競うトライアスロン龍馬杯です。桂浜を出発点とし、安芸郡田野町をゴールとします。

まず、桂浜の龍馬像の前で開会式をします。選手宣誓は、龍馬像に向かってしてもらいます。そして、桂浜からスイムをスタートします。沖に設置されたブイを回って帰る

1. 5キロのコースです。そしてその後、自転車に乗り換え、風光明媚な海岸線を通って、一路安芸まで向かいます。安芸の野良時計の前をルートに入れると良いと思います。

安芸から田野町まではマラソンです。疲れた体をさわやかな潮風が後押ししてくれることでしょう。ゴールの田野町では、参加者をよさこい鳴子踊りでお出迎えます。入賞者への副賞には、ペアで2泊3日の高知の旅ご招待をはじめとして、県産品をふんだんに使います。

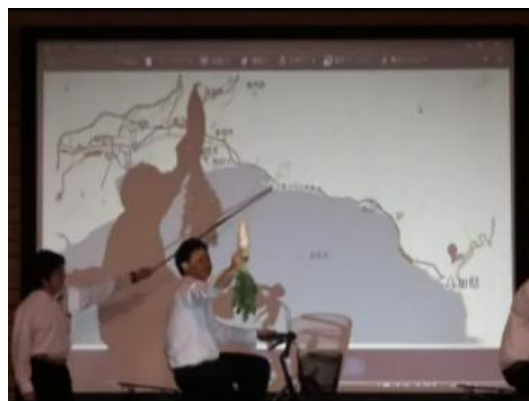
ゴール後は、奈半利川沿いにある二十三士温泉で疲れを癒してもらい、夜は奈半利川の河原でバーベキューをして、参加者全員で健闘をたたえあい、和気あいあいと土佐のおしゃくを楽しんでもらいたいと思います。もちろん、鰹のタタキをはじめ、高知のおいしい食べ物を忘れてはなりません。その盛り上がりを通じて、参加者やその家族の皆さんは、高知のよさを胸に刻みつけてくれることでしょう。

もう一つの提案は、タイムを全く競わずに高知の自然を満喫してもらう「龍馬ママチャリラリー」です。これは、参加者全員がママチャリを使って、高知城から安芸までツーリングするもので、石川県で実際に行われているツールド日本海ママチャリラリーを参考にしました。

このよさは、自分の足で自転車をこぐことによって、車で通り過ぎるだけでは気づかなかった町のおいや潮の香りなどを新たに発見できることです。ルートの途中には、道の駅などを使って休憩やレクリエーションを兼ねた関門を設けます。

開会式は、高知城下、板垣退助像の前に集合し、参加賞として配られたおそろいのTシャツを着て行きます。そして、準備運動を兼ねて、よさこい鳴子踊りを参加者全員に覚えてもらいます。これは、夜の慰労会でもう一度踊ることになります。その後、第1関門の日曜市に全員で繰り出します。日曜市では、鰹のタタキに使う鰹以外の材料を仕入れてもらいます。

というのもゴール地点で、参加者全員に鰹のタタキ作りをしてもらうからです。「鰹のタタキを作るには、どんなものがいりますか」などと、道行く人やお店の



人に聞きながら、大根や玉ねぎ、ネギやミョウガ、ミカンやブシュカンなど必要と思われるものを集めます。

ここでのやり取りで、土佐弁の面白さや、人の温かさなどに触れることができるのではないのでしょうか。買い物が終われば、それを持ってママチャリでスタートです。

次の関門は、南国道の駅です。そこでは、土佐和紙作りを体験してもらいます。作るのは、葉っぱを漉き込んだ手作りハガキ。もちろんこれは、後日、参加者に送ります。その後、海岸線沿いのサイクリングロードを使い、東へ向かいます。

そして3つ目の関門は、夜須町の道の駅「ヤ・シィパーク」です。ここにはバーベキューサイトもあるので、グループごとにバーベキューで昼食を取ってもらいます。天気がよければ地引網漁をしてもらってもいいと思います。

さて、腹ごしらえが済んだ後は、一路安芸に向かいます。安芸では、いったん町中に入り、土居廓中（どいかちゅう）や野良時計などの歴史的町並みを楽しんでもらいます。ここまで来れば、安芸駅前の地場産市場のゴールは目前です。

最後の関門は、この地場産市場での鰹のタタキ作りです。参加者全員に実際にわら焼きタタキを作ってもらいます。仕上げは、朝に日曜市で買ったものです。それらを使い、おいしいMYタタキを作ってお皿ごと持って、ゴールテープを切ります。

その後は、ゴールした人から土佐のおきやく開始。日本一の出荷量を誇る安芸のナスをはじめ、地元の食材をふんだんに使った料理に舌鼓を打ってもらい、宴会を楽しんでもらいます。

以上が、僕たちの考えた高知の自然を満喫してもらう企画、「エンジョイ高知スポーツフェスティバル」です。